

事業報告書

1. 団体名	Team D0 IT!!!
2. 事業名	ZENSHIN!ムラサキプロジェクト
3. 対象	事業の対象となった地域や地域住民を記入してください。
亀岡市民。京都市、南丹市など周辺地域住民。Jリーグ来訪者	
4. 期間	実施期間を記入してください。 ※対象期間は最大で令和5年4月1日～令和6年3月31日までです。
令和 5年 5月 1日 ～ 令和 6年 3月 31日	
5. 地域課題・事業目的	支援金申請書に記入した、地域課題・事業目的を改めて記入してください。
地域課題 亀岡市の人口は依然として微減傾向。住民の高齢化も年々進む中で、若い世代は都市部に流出していきまちは耕作放棄地が目立ち始めている。そのような流れを止めるためには、子供たちや子供たちの親世代の若い人たちが、郷里に愛着や誇りを持てる何かが必要だと考え、2020年に建設されたサンガスタジアム by Kyocera と、「ホームチーム」京都サンガF.C.の存在をアピールするとともに、サッカーが好き/嫌いは関係なく、チームカラーである＜紫色をまちにひろめる＞ことで、ゆるやかに人がつながる活動を推進してきました。 事業目的 今年度も活動軸は変わらず、亀岡市に住んでいる人も、亀岡市を訪れる人も、この地を紫に染めることで一体感を感じて、お互いに応援しあえるような関係になることを目指します。 これは、スタジアムの中で名を知らないサポーター同士が顔見知りになって、紫色のホームチームと一緒に応援する…。 スタジアム内で展開される、そんなステキなシーンを、まちの中に落とし込むということです。 共通の盛り上がる話題をつくり、亀岡という地への想いが変わることで、同じ場所であっても新たな「居場所」が生まれる。そうして、つながった人たちが「地元の誇り」や「郷愁」というものを心にもっていただければ、この地に魅力を感じた人たちの他地域からの移住促進やシビックプライドの醸成にもつながり、この地が「前進」していけると考え、活動していきます。 自然豊かな亀岡の風土を愛する人が増えれば、荒れ果てた未耕作地は減っていくのではないのでしょうか。 亀岡市が人の「集まる」まち、あるいは「帰ってきたい」まちへと変えていくきっかけを創出することがこの活動の目的です。 もちろん、京都サンガF.C.を応援していくことも推進していきます。	

6. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。 (実施日、場所、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など) また、交付決定に記載の条件・アドバイスに対してどのように取り組んだのかについても記入してください。
<<チームイベント>>畑イベントは、全てサンガスタジアム by Kyocera の近くの畑で行いました。 ムラサキガーデンプロジェクト 5/27 チューリップ球根の収穫祭開催 参加 12 名 前年のチューリップアートの終わった 5000 株から、子孫になる球根を掘ってもらい、これを参加者が植えてまちにひろめる趣旨で開催した。事前に新聞掲載があり、初見の京都市からの参加者もあり、紫色のチューリップは、みなさん珍しいという印象であった。 余剰の球根は、後日、約 500 球を亀岡市保育課にお届けして、市内の保育園に配布し、紫色をまちにひろめるプロジェクトにご協力いただいた。 12/3 チューリップアートの球根植え (横断幕作成併催) 参加者 5 名 (無料イベント) 毎年、兵庫県豊岡市の「たんとうチューリップまつり」主催者 但東シルクロード観光協会さまにお世話になり、入手した 5500 株の球根を使って、1 アールの畑にチューリップアートを描いて、紫色で内外にこの地をアピールするために、球根植えつけを開催した。今年の絵柄は、京都サンガ F.C. のご協力を得て、チームキャラクター「パーサクくん」の顔を描き、球根植えを実施した。4 月中旬にはチューリップアートの見頃となり、多くの方にご覧いただいて、紫色のまち亀岡をアピールする。 また京都サンガ F.C. 関係者の方々にも視察に訪れていただき、注目いただいているので、この活動を今後もつながりをもって取り組んでいきたい。 この植え付けにも多くの人に携わってほしかったが、今年は他のイベントとの競合が激しくなったことや、屋外活動が厳しい時期になったこともあり、参加者の足は鈍くなってしまった。 同時に、子育てフェスタで作成した横断幕の続き (寄せ書き) も現地で行いました。 パープルスウィーツプロジェクト 6/18 ムラサキサツマイモ苗の植え付け 参加 9 名 無料イベント。チューリップ畑に隣接したスペースに、サツマイモ畑 (約 1 アール) を新設して、本年は 3 種類のサツマイモ (種子島紫、フクムラサキ、ハロウィンスイート) の苗 (挿し穂 150 程度) を植え付けた。予定にはなかったが、翌週に収穫予定の紫色のジャガイモも、参加者に一部収穫してもらって、喜んでもらえた。 6/25 ムラサキジャガイモの収穫 参加 8 名 ジャガイモは本年が初の試みで、3 月からチューリップ畑前に 30 株程度を栽培。紫色のジャガイモシャドークイーンを 15 株植えて、あとはお試しで赤い皮のアンデス赤や、一般種のデジマ、あかね風などの種類を少しずつ育てました。京都市から参加もあった。その一方で亀岡の方で「参加費と収量がつりあわない」とお帰りになった方もおられた。参加者は親子連れの方が多く、	

その様子は京都新聞紙面やネット記事にもなった。
残った収穫イモは次項のムラサキカフェの材料とした。

7/16 収穫物を使ったムラサキカフェの開催

収穫したムラサキジャガイモを使ったカフェイベント。

保津町の農家民宿 Farmhouse NaNa さんで開催。同所の保健所認定食品加工所を利用させていただき、同所で普段「軒先カフェ」として開店されている「柿の木パン」さまから、保津産ライ麦ベースのバンズを作っていただき、パティは丹波牛+豚ミンチ、そこに紫キャベツ、紫タマネギをともに挟んで贅沢な味にした。

そこに、チーム畑のジャガイモを添えた紫バーガーセットを販売。

飲み物にも、ハーブの乾燥ブルーマロウから抽出したムラサキドリンクを用意した。

当日は、京都サンガ F.C. のホームゲームで、前週にガレリアかめおかでのパブリックビューイングイベント時にチラシを配布した効果もあって、サンガサポーターなどの来場もあった。

味の方も好評で、「次はいつ？」というお声も聞かれた。（京都新聞に記事掲載）

来場者約30名

9/30 10/28 ムラサキサツマイモの収穫

9/30 参加14名 10/28 参加15名

秋。2回にわたって、収穫イベントを開催。初回は、イモ畑の整備（株のお世話）と試し掘りの位置づけ、2回目は収穫祭というタイトルで開催した。

初回は、イモがまだ小さいのではないかと心配がありましたが、品種によっては十分に育っており、参加者の多くがお子様の同伴であり、株を掘り出すたびに歓声があがった。

また、まだ掘り出さない株については、長く伸びた先のイモツルが根を張らないように、ツル返しというお世話をした。これは地中のイモが大きくなるようにするお世話で、参加者のお子様に食べ物がただ単にできているのではないことを、すこし学んでいただきたいという意図で実施した。

10月開催の2回目は、残るお芋を掘り出す収穫祭。こちらも子供さん連れの参加者が来られ、イモ掘り意外にも、周りにいる虫や小動物に大喜びされる姿もあって、亀岡の豊かな自然環境を知ってもらえた。

このイベントは、京都新聞やケーブルテレビのZTVで報じられた。

3/10 収穫物を使ったムラサキカフェの開催

約30名来場。年があけて3月に開催したムラサキカフェは、秋収穫のムラサキサツマイモを使用したメニューを考え、前回と同じく農家民宿 Farmhouse NaNa さんにおいて開催した。

サツマイモは、素揚げした素材に砂糖をからめる「雪いも」と、ピザ窯を利用してじっくり焼いた「焼き芋」を用意。また、Farmhouse NaNa さんで作られたオクノムラサキという古代米をかまどで炊いて握ったおにぎりと、そのお米を烏骨鶏の卵かけご飯にするメニューを提供し、珍しいムラサキメニューに喜んでいただいた。

近所の方、活動でつながった方、NaNa さんの過去の宿泊のお客様で京都府外から来店された方など、多くの方にムラサキプロジェクトの活動を知ってもらえる機会になった。

スイーツプロジェクトは、亀岡の自然のなかで育ったものを観て、獲って、食べるというところにこの地の良さをアピールするメッセージを込めており、この趣旨は、体现できたと考えている。

横断幕プロジェクト

11/4 亀岡市主催の子育てフェスタに参加（横断の作成イベント）

横断幕プロジェクトは、まちにサンガカラーのムラサキの横断幕を掲出して飾る意図のものである。そのために、まちの理解を深めて、紫色が広まっても違和感のないまちの風土をつくる「きっかけ」作りで始めており、我々の事業の軸であり、その中でつながった方々と同じ景色に共感しながら進みたいという目的がある。そのため対象者は、既存のサンガファン・サポーターではなく、非サッカーファン層も含めています。

今回、サンガスタジアムで開催された「サンガスタジアムまると子育てフェスタ」のブース出展し、約30名の方が参加されて、用意した横断幕にサンガへの応援や、自由なお絵かきなどで、みなさんの想いを載せていただいた。

この横断幕は京都サンガF.C.のご協力で、サンガの選手やスタッフの方などからの書き込みも加えていただいて、大変盛況で、ゆるやかに人がつながる活動となった。

市民とサンガが同じ横断幕上にいることで「ともに闘う」を表現した横断幕で、今後も、このような心がつながる活動をつづけて、ムラサキのまちを目指していく。

・ 交付決定に記載の条件・アドバイスに対しての取り組み内容

成果の上積みへの取り組み→つながりを増やすこと

京都府の「学生×地域つながる未来プロジェクト」に参加し、同プロジェクトの大学生2人を9月からメンバーに受け入れ、目的である、若い世代への亀岡の自然や人のつながりをアピールした。一方で、京都サンガF.C.にご協力を得て、チームイベントで作る横断幕を、市民とともに京都サンガF.C.選手や関係者の寄せ書き形態として、想いが通じる横断幕として作成した。

また、実現はしなかったものの、京都府生涯現役クリエイティブセンターリカレント研修「地域・社会貢献人材育成コース」の現場体験受け入れ団体に応募した。（研修者の参加希望がなかった）

収入増への取り組み

前年まで無料または@¥500としていた畑イベント参加費用を@¥1000（大人一人）に設定した。イベント参加者や活動でつながりを持った方々に対して、チーム活動の趣旨を説いて共感者を増やし、別の補助金（亀岡 NAWASHIRO 基金）へのご協力をお願いした。

7. 成果と課題	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果と課題を下記の①～④ごとに記入してください。
① 実施結果数値（6. で記入した事業の回数や参加者数などをまとめてご記入ください） チューリップアート主催イベント 2回 のべ17名参加 横断幕イベント 2回 のべ約35名参加 パープルスイーツプロジェクト畑イベント 4回 のべ46名参加 ムラサキカフェイベント 2回 のべ 約60名が来店 ② 事業による変化・成果（課題解決にどのような効果があったのか）	
横断幕プロジェクト 亀岡市主催の「サンガスタジアムまるごと子育てフェスタ」（サンガスタジアムで開催）において、ブース出展し、不特定多数の来場者にこの活動や、京都サンガ F.C. への興味を喚起するきっかけをつくることができた。当該の横断幕は、現在京都サンガ F.C. にて書き込みを加えていただいている。今後、これを「つながった証」としてチームイベント時や、まちの中で趣旨をご理解いただける場所に掲出していく。 また、既存の横断幕の掲出によって、チームイベント以外でも以前からつながりのある洋菓子店 ROSETTA さまとの連携（8. の項参照）により、サンガの活躍でお店のお客様の発案で、ムラサキの新メニューが生まれるなど、まちの機運を盛り上げられたのではないかと思います。	
ムラサキガーデンプロジェクト チューリップアートを紫色の花で制作し、その球根をまちにひろめる趣旨で開催。 掘りあげた球根については、「紫色」ということで京都市内から新規の参加者もみられ、ムラサキ de ツナガルという部分では、成果を残すことができた。 また同様の理由で、昨年に引き続き、市内の保育園にて園児のアクティビティに同行、秋に掘りあげた球根の植え付けができた。これが継続できたことがムラサキプロジェクトの活動のひとつの成果である。園児たちの心に、春のムラサキチューリップが残って、今後も亀岡に住み続け、一人でもこの活動を広めてくれることを願っている。 今季のチューリップアートは、京都サンガ F.C. のマスコットキャラクター（パーサくん）を象っており、まもなく（4月上旬）開花。サンガサポーターなどを地域に呼び込む花となってほしい。	
パープルスイーツプロジェクト チューリップアートの畑に隣接して畑を作り、そこで栽培した紫色の作物（ジャガイモ、サツマイモ）を使って、カフェイベントを行った。 畑イベントにおいては、参加者の子供たちが、いきいきといも掘りをしたり、畑にいる虫を獲って大喜びしている姿が印象的でした。非日常の空間を感じ、チーム員として参加してくれた学生たちも含めて、大都市近郊にもかかわらず、自然環境の素晴らしい亀岡のアピールになったはずである。 また、7月には収穫した紫ジャガイモを、3月には同じく紫サツマイモを使ったカフェイベントを保津町の Farm house NaNa さんにて開催。単発イベントではあったが、2回ともつながった関係者の方々もおこしになり、新聞で大きく取り上げられるなど、さらにつながりを増やす盛況な	

イベントとなった。

③ 事業を実施しての課題

コロナが5類扱いとなった今季は、参加者が昨期にくらべて減少。他で開催されるイベントも復活されて競合してしまう部分も感じた。そんな中で、チームの SNS 中心の広報を行いました、それでは集客力の限界があることを感じた。

また、活動の中でいろいろやるべき事が見えてくる中で、各方面からお声がけいただくというポジティブな部分がある反面、それを実行すべくマンパワーの不足が、各所に露呈、結局、イベント開催をすることで手一杯になってしまった。

その影響もあり、いただいた紫色の花を畑に植栽をしても雑草に負けて枯れてしまったり、当初予定のひまわり畑を実現することができなかった。(種撒き時期が遅れて発芽せず)

資金調達という観点では、今季も週末ボランティアというスタンスの活動では、なかなか新たな取り組みを行うことができず、マンパワー不足が原因で、できることにも制限をかけてしまった感否めません。今後、改善する必要があると考える。

8. 協働の効果	今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働（協力）された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。
----------	---

令和5年8月より、京都府文化生活部の「学生×地域つながる未来プロジェクト」に新規参加し、大学生2人をメンバーに受け入れ、約半年間共に活動を行った。わずか半年の時間の中で、週末が中心の限られた活動時間ではあったが、参加学生の二人は、当チームの活動意義を理解していただき、年度末で同プロジェクトは終了となるが、その後もチーム活動に参加したいという意向を持たれている。

これは、少なからずこの事業の目指す、郷土愛の醸成の一步になるのではないかと考えている。

また、同じく「学生×地域つながる未来プロジェクト」参加団体の男山中央センター商店会さまに、チューリップアートでの余剰となった球根を同商店街に植えるイベント（1/27）を開催していただいた。

他団体と関わることは、手勢の少ない私たちには負荷になるのではないかとという危惧があったが、余剰の球根が、他のまちをも紫色で染めて、共通の話題からお互いに興味を抱くという波及効果もあり、それぞれの活動において共有できる部分があれば、お互いの活動にプラスに作用することもあることがわかった。

チューリップに関しては、昨年に引き続き、チューリップアートの株から生まれた球根を市内の各保育園で植え付けをしていただき、今後もムラサキプロジェクトの輪を広めていきたい。保育園児たちは、多くはスタジアムや京都サンガ F.C. の存在を認知されており、ムラサキ色が「ふるさとの色」だと認知してくれる日も近いだろう。

またチームの横断幕を使用して、亀岡市東つつじヶ丘のシフォンケーキのお店 ROSETTA さまのサンガ応援を意識した紫色の新商品「これで勝つ」の発売イベントに参加協力を行った。

お店で使用される新商品の広報幕に、チームの横断幕のデザインをしていただいている書家の奥田百恵さんが参加され、2次的なつながりもつくることができた。

今後もこのような関わりを増やしていければ、活動の懐の深さが増すのではないかと感じた。

9. 今後の展開		事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
	実施内容	資金獲得方法（助成金・寄附金）
2 年目	今年度の活動で得たつながりを活かして、実働メンバーを増やした上で、活動量も質も上げて、イベントの内容も充実させたい。 収穫物を販売できるように成長させて、活動資金面も充実させたい。	各種支援金 寄付（クラウドファンディングなど） 参加費 企業協賛金
3 年目	コンセプトがブレない活動を続けていくこと。活動地（畑）が亀岡市所有地であり、市政 70 周年の部分で活動できればと考えている。	各種支援金 寄付（クラウドファンディングなど） 参加費 企業協賛金
10. SDGs への取組		SDGs（持続可能な開発目標）は「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2030 年までに達成すべき 17 のゴール（目標）と 169 のターゲット（具体的目標）から構成されています。 <u>今回実施された事業によって取り組めたゴールの番号と内容をご記入ください。</u>
番号	取組の内容	
番号 11	「住み続けられるまちづくり」各種イベントで、亀岡市民か否かは問わず、今後のまちづくりに力になる「つながり」をつくることができた	
番号 15	「陸の豊かさを守ろう」引き続き、亀岡市所有の未耕作地を有効利用して賑わいをつくることができた。自然の豊かさもアピールできた	
番号 17	「パートナーシップで目標を達成しよう」自チームだけではなく、他団体の活動のなかで共有できる目的を目指して行動することができた	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料がある場合は添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。



5/27 チューリップ球根の収穫祭開催



12/3 チューリップアートの球根植え（横断幕作成併催）



12/6 保育園児さんたちと、収穫球根の植え付け



6/18 ムラサキサツマイモ苗の植え付け





6/25 ムラサキジャガイモの収穫



7/16 収穫物を使ったムラサキカフェの開催



9/30 10/28 ムラサキサツマイモの収穫



3/10 収穫物を使ったムラサキカフェの開催



11/4 亀岡市主催の子育てフェスタに参加（横断の作成イベント）



ロゼッタさんとの協働

